

## ●これまでの成果

- 航空レーザ測量成果について、アスファルト舗装された堤防天端道路、レーザ光が透過する程度の密度の繁茂密度の低い植生領域、透視度の高い水部等では、河川定期縦横断測量成果としての適用性を確認できた。
- しかしながら、繁茂密度の大きな植生領域、透視度の低い水部等では、その測量精度にバラつき。

## ●改訂方針(案)

- 平成30年度は、測量精度にバラつきが生じる要因を明確にするため、各地整少なくとも1河川で航空レーザ測量による河川定期縦横断測量を試行。
- 試行にあたっては、現行の実施要領・同解説の測量精度を確保するように航空レーザ測量を実施し、草丈や繁茂密度が測量精度に与える影響、水部での測量精度について整理。
- これらの成果を踏まえ、実施要領・同解説に反映。

## ●参考

- 3次元地形データの活用状況(見込みを含む)を調査した結果、計画、設計、施工、維持管理、危機管理、分析等調査と幅広く活用されている(される見込みがある)ことが確認された。
- 本検討会に引き続き、来年度開催予定の「3次元地形データ測量指針検討会(仮称)」において、目的別の精度を検討。